



小松島港

28 阿波風景 団藍舟

一帖

大正十一年(一九二二)

絹本着色

各二七・〇×三六・三

大正十一年(一九二二)十一月の皇太子(昭和天皇)北海道行啓の折、徳島県において蜂須賀正韶侯爵より献上された画帖。この行啓の行程に入っていた小松島港や鳴門海峡をはじめ、徳島の名所旧跡が全部で十二図描かれている。各図の脇には題が付されており、頭から小松島港、公園の晨、津田浦夕風、眉山の春色、吉野川の月、製藍、大麻彦神社、夏の土柱、雨後の箸蔵寺、蔓橋秋色、塩田の暁、雨



津田浦夕風



眉山の春色

中鳴門、という構成であった。絵を描いたのは、徳島出身の画家である団藍舟(二八七二~一九三五)。名は伊作、字は士敬。はじめ徳島在住の画家多田藍香と吉永藍畦に学んだが、後に上京して川端玉章に師事した。川端画学校が創立すると塾頭をつとめ、また日本美術協会でも幹部として中心的に活動したことが知られる。本画帖は、各地の風景を写実的に描写しながら、自然なほかしやにじみを用いて空間の奥行きを出す師の玉章ゆずりの遠近法と、染料を主体とした淡い彩色によって、阿波の自然が四季折々に見える美観をあたかな眼差しをもって表現している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzōkan